

## 第 6 学年「総合」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 自ら課題を見付け、目的に応じた情報収集をもとに話し合い、活動に活かすことができた。その探究サイクルについて理解している。
  - 保護者や地域の方も含めて、他者と協働する良さについて実感している。
- 課題**
- ▼ 学級やチームに分かれて活動した際に、自分事ではなく人任せになってしまう児童もいた。
  - ▼ 今年度の活動は、児童だけでは厳しい活動で、地域の方との連携が不可欠だった。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 整理・分析力。思考ツールを適切に用いて考えを伝え合うことで、活動の内容を精選するとともに、計画や役割を明確にして次の活動につなげる力。
- ◇ 探究的な学習過程を理解し、児童主体となって活動を進めていく力。

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 振り返りの時間を大切にし、本時の学びを整理するとともに、次時の見通しをもつことができるようにする。
- 地域の方と積極的に連携し、体験を通して探究できるようにする。

#### 言語活動の工夫

- 児童一人一人が考えをもつ時間と、それらを伝え合う時間を分けて設けることで、活発な言語活動につながるようにする。
- 場面に応じて適切な思考ツールを用いることで、整理・分析を行いやすくする。

#### ICT活用の工夫

- 情報収集や意見の共有、まとめの場面において、目的に応じて活用する。

#### 課題解決力育成の工夫

- 探究的な学習過程を見通して児童が学習計画を立てることで、自らが課題を発見し、解決していく流れを身に付けることができる。

### 達成目標

- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。
- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。